

初めての租税教室を終えて・・・ ～児童と一緒に税について考える機会に～

私は、益田法人会青年部の佐々木知子と申します。

この度、事務局の方々に背中を押して頂きながら、初めての租税教室を行わせて頂きました。まずは、益田税務署が開催した租税教室の講師養成研修に参加しました。租税教室で使用する際の教育資料（パワーポイント）は、とても分かりやすく、私自身改めて税金について考えさせられました。養成研修を終え、初めて行かせて頂いたのが豊川小学校でした。私の初めての租税教室を振り返ってみたいと思います。

当日に向けて、事務局の方に読み合わせに付き合ってもらいました。それでも、やはり当日の緊張はMAXです。校長先生にご挨拶した後に、教室に移動していると5年生の教室からみんなで歌う声が聞こえてきました。その声を聞いて私は少し緊張感がとれ、とてもワクワクしてきました。教室に入ると、とても元気な児童を前に私はほどよい緊張と、リラックスした状態で租税教室をすることができました。少人数のクラスでしたので、自己紹介の後に児童にも自己紹介をしてもらい租税教室の授業を開始しました。途中途中にクイズがありますが、児童はしっかりと答えてくれて、中にはなぜその答えを選んだのかを説明してくれたり、終始賑やかに？過ごすことができました。特に、1億円（レプリカ）の入ったスーツケースには食いつきがよく、「すごい重い！」「初めて見た～！」など声が飛び交い、私も“初めて見た！”と同じように楽しく授業を進めていくことができました。

消費税に対しては、「自分も払ってる！」などと言いながら、身近なところで税金を納めていることを初めて知った児童もおり、私は心の中で「租税教室に参加してよかった！」と感じました。

私の小学校の時このような授業があったのだろうかと振り返りましたが、記憶にはありませんでした。小学校の頃から税金に対しての知識を楽しく覚えることで、大人になっても税金に対して考える力ができるのではないかと思います。私もこの授業を小学生の時に受けたかったなと思いました。授業の最後は「ありがとうございました！」で無事に教室を終えることができました。

無事に租税教室ができたのも、豊川小学校の先生方そして楽しい授業の雰囲気を作ってくれた児童の皆さん、そして益田法人会の事務局の方々のお陰です。感謝申し上げます。

また機会がありましたら、租税教室に参加させてください。

青年部会員 佐々木 知子



租税教室

益田法人会は、社会貢献事業の一環として小学6年生を対象に租税教室を開催しました。

今年で17年目となる租税教室は、新型コロナウイルス感染防止のため、教室の換気、手指消毒など感染防止策を整えた環境の中で授業を開催しました。

今年は、5月から税教室が開始され、益田法人会から講師が伺い直接児童に対して「税金の大切さ」「何故、税金が必要なのか?」「主な税金の種類としくみ」などをスライドとDVDを使用して分かり易く説明しました。

No	開催日	曜日	学校名	組	人数	回数	講師(敬称略)	
							会社名	氏名
1	5月26日	木	高津小学校	1	35	1	(有)アルソアおおたに	大谷孝司
				2	34	2	A L S O K 山陰(株)	高森香織
2	5月31日	火	豊川小学校		6	3	高橋建設(株)	佐々木知子
3	6月8日	水	吉田南小学校		25	4	益田タクシー(株)	藤原政志
4	6月10日	金	蔵木小学校		5	5	正栄工業(株)	日高康雄
5	6月21日	火	安田小学校	2	20	6	(有)誠和道路	和田誠
				1	21	7	岡崎左官店(有)	岡崎亨
6	6月30日	木	吉田小学校	1	28	8	益田タクシー(株)	藤原政志
				3	30	9	益田タクシー(株)	藤原政志
				2	29	10	(有)千代田企画	寺戸大輔
小計					227		(講師 10名)	

※ 12月～2月頃に小学校1校、中学校3校の租税教室を行う予定です。講師の皆さんよろしくお願いします。

各学校「租税教室」

◆ 5月26日 高津小学校 ◆



第1回 6年1組 講師 大谷孝司さん



第2回 6年2組 講師 高森香織さん

◆ 5月31日 豊川小学校 ◆



第3回 5年生 講師 佐々木知子 さん

G. 日本で本当にあった税金はどれ？



◆ 6月8日 吉田南小学校 ◆



第4回 6年生 講師 藤原政志 さん

◆ 6月10日 蔵木小学校 ◆



第5回 5年・6年生 講師 日高康雄 さん

◆ 6月21日 安田小学校 ◆



第6回 6年2組 講師 和田 誠 さん

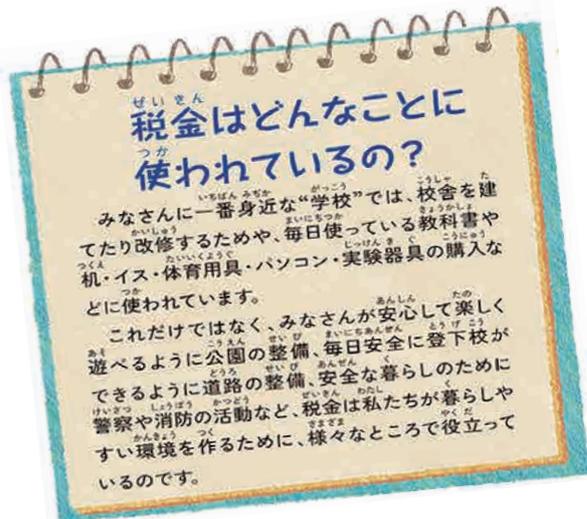


第7回 6年1組 講師 岡崎 亨 さん

◆ 6月30日 吉田小学校 ◆



第8回 6年1組 講師 藤原政志 さん



第9回 6年3組 講師 藤原政志 さん



第10回 6年3組 講師 寺戸大輔 さん

じゃあ、税務署はお金持ちになるね！

いやいや、税務署はお金持ちにはならないよ。消費税は税務署で預かって、いったん国に納められるんだ。

みんなの消費税が税務署に納められると聞いたけん、
「じゃあ、税務署にはとんとんお金がたまっていくお」と思わず口に出してしまいました。
「いやいや…そうじゃなくて」とウツスマント。
「税務署に預けられた消費税は、最後は国と地方に納められるんだよ。」

※消費税は国庫（国税）と地方税（地方消費税）に分かれていて、10%の消費税のうち3%は国庫、2.5%は地方税なんだよ。

ほかの税金もいったんぜんぶ国に納めるの？

そうじゃないんだよ。税金は種類によって国と地方に納めるんだ。

消費税のほかにも、税金にはいろいろな種類があるんだよ。その税金の種類によって、国に納めるか、地方（都道府県や市町村）に納められるかが決められているんだよ。税金の種類については、次のページでくわしく勉強してみよう。

みどりのカーテン事業 ～ゴーヤ苗の配布～

みどりのカーテン事業は、益田法人会 社会貢献委員会が社会貢献活動の一環として平成21年度から開始し、今年で14年目を迎え、配布した苗は11,000株を超えました。

5月12日(木)・13日(金)の2日間、駅前町にある(有)フラワー湖月様で事前申込をした会員・一般市民の皆様にごゴーヤの苗を配布しました。

今年も暑い夏に向けて事業所や家庭でグリーンカーテンを育てて頂き、育てたゴーヤの葉が日差しを遮り室温の上昇を抑え、エアコンの使用を抑えることにつながり、電気代の節約ができます。

9月には「みどりのカーテン写真コンテスト」を開催します。コンテストの結果は、ホームページ等でお知らせします。また、コンテストに応募して頂いた皆様の作品展示を9月26日から10月7日までの間、益田市役所 1階 ロビーにおいて行いますので是非ご覧ください。

最後に社会貢献委員会の皆様、当日はお忙しい中ゴーヤ配布のお手伝いを頂きありがとうございました。心より感謝申し上げます。

配布の様子



青年部会年次報告会

青年部会は、6月14日三好家において令和4年度青年部会年次報告会を開催しました。

年次報告会は、新型コロナウイルス感染拡大防止に対する配慮（マスク着用、手指消毒など）をしつつ、最初に大谷部会長のあいさつのもと令和3年度事業報告、令和4年度事業計画について事務局より説明し、承認されました。議事に続いて2名の部会員の役職定年功労表彰を行い、来賓あいさつでは、中野益田税務署長、森本会長にご祝辞を頂きました。続いて福利厚生制度について保険3社より健康経営（KSP）に関連したイベント案内、法改正された道路交通法への対応やコロナ禍等においても安心して働ける環境への整え等について説明を受け、予定された議事を円滑に進行し報告会を終了しました。

○ 定年功労表彰者

北陽電気工事（株） 岡崎 寛 様

（有）ドレミ 池田知久 様

永年の青年部会活動へのご尽力に対し深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



女性部会年次報告会

女性部会は、6月16日荒磯温泉 荒磯館において令和4年度女性部会年次報告会を開催しました。

年次報告会は、川上部会長のあいさつのもと令和3年度事業報告、令和4年度事業計画について事務局より説明し、承認されました。続いて会員名簿により2名の新入会員を紹介するとともに現在の会員状況をから会員増強への協力について依頼されました。来賓あいさつでは、中野益田税務署長、森本会長にご祝辞を頂き、年次報告会の議事は終了しました。議事終了後は、「内からきれいに～今からできる健康づくり～」と題して益田市立保健センター健康増進課 保健師 金高知実氏、鎌谷真由美氏から健康診断・各種健診を受けることの意味、生活習慣を整える一環として「益田版 益ます元気体操」を体験する他、身近に感じる“だよな”などユーモアを交えた講演を頂きました。まだまだ新型コロナウイルス感染拡大防止に対する配慮（マスク着用、手指消毒など）をしなければならない現状ではありますが、有意義な報告会となりました。



第1回 法人学校開校

6月23日（木）益田商工会議所3階大会議室において、令和4年度第1回法人学校を開校しました。

第1回目の講師は、特定非営利活動法人防災支援センター 代表 桂木 正則氏をお迎えして「企業の防災対策について」下記の内容で講演をいただきました。

① 近年の災害

気象庁が発表した天気図等を用いて、当時の災害について説明されました。

東日本大震災（2011年3月）以降、約10年で大きな災害が52件（風水害豪雨、台風35件）あり、全国の市町村の約53パーセントが何らかの災害にあっていいる。昨今、地球温暖化により風水害が多くなる傾向にあり、台風が大型化するとともに集中豪雨やゲリラ豪雨がこれまで以上に頻発する傾向にある現状を再認識しました。

② 災害被害と企業の態勢（内閣府や中小企業庁作成の統計資料等を活用）

- ◇ 中小企業が被災によって受けた被害の内容で被災して会社が一番困ったと感じたこと
 - ・役員・従業員の出勤不能（44.5%）
 - ・販売先や顧客の被災による売上げの減少（39.1%）など
- ◇ 自然災害への備えに具体的に取り組んでいる割合
 - ・取り組んでいる（45.9%）
 - ・取り組んでいない（54.1%）
- ◇ 自然災害への備えに取り組んでいない理由
 - ・何から始めればよいか分からない（31.8%）
 - ・人手不足（23.9%）
 - ・複雑と感じ、取り組むハードルが高い（19.9%）など

近年、想定を超える災害が起きている以上、企業が行う防災対策は必要不可欠となる。日本は、自然災害の発生リスクが高く災害が発生すると損失が大きいため、事前の対策が必要で自社、他社への影響を検討しリスクを把握して行政機関、保険会社の支援などの対策と処置をすることで自社の損害を少なくして事業の再開が早くなることにつながることを理解することが必要だと感じました。

③ 防災の理念（避難、自主防災組織、災害復旧の3つの柱）

- ・避難（生命の安全確保）は、避難行動の手順書を作成
時系列で分かりやすくルールを決める。そして「一度やってみる」ことが大切、やったことのないことは災害時に決してできません。
- ・自主防災組織は、地域における多様なスタイルで自発的に行う防災活動を促進するため、企業が行う防災活動に付近（地域）の住民も取り込み連携
- ・災害復旧は、通常の生活に戻すことが必要で企業のスキルを活かした災害復旧、自主防災組織との連携、ボランティア、避難者の避難場所の確保、物資の支援など企業ができることを念頭に地域防災の促進を図ることが必要だと認識しました。

④ まとめ

企業の防災組織と地域（自治会等）との連携は、「自助」自身の命を守る、「共助」地域との協力、これは日常の地域との係り方の大切さを気付かせてくれる。家族・社員・地域住民の「大切な命」を守るため、防災マニュアルの策定、事業継続計画（BCP）の策定、防災訓練の実施（マニュアルの検証）など過去の災害を振り返り、平時における“災害への備え”の大切さを再認識しました。

居安思危 思則有備 有備無患（安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し）
1年に1回 家族で防災について話してみてください！

